

聞き上手なお母さん その2

「ただいま。」「お帰り。学校、楽しかった？ お友達と仲よく遊べた？ けんかしなかった？」「うん。」
「誰と遊んだの？ サッチャン？ カナちゃん？」「ヨリちゃん。」「ミチコ、先生のお話よく分かった？ お話、よく聞いてた？ 先生、どんなことお話した？」「ううん、忘れた。」「ええっ、忘れた？ よく聞いてなかったからでしょう。先生のお話はよく聞いてなきゃだめよ。」「……。」「ねえ、今日プールあったでしょ。入った？」「うん。」「寒くなかった？ だいじょうぶだった？ ミチコ、泳げるようになった？」「……。」「今度練習しなくっちゃね。給食はどう？ おいしかった？ きらいなもの、なかった？ 全部食べられた？」「……。」

「ただいまあ。」「お帰り。」「お母さん、あのね、今日の帰りの会、バトル。すっごくおもしろかった。」「何、それ。」「あのね、カンちゃんとヨシくんが本を取りっこしてじゃんけんバトルやったんだ。」「じゃんけんバトル？」「『おたまじゃくしの101ちゃん』（かこさとし作 偕成社）っていう本をね、カンちゃんとヨシくんがじゃんけんで、勝った方が借りるんだよ。それで、カンちゃんが勝ったんだよ。」「それがじゃんけんバトル？」「じゃんけんはね、10回勝たなきゃだめなの。」「ええっ、10回？ 誰が決めたの？」「先生。先生が審判。みんなが『カンちゃん』『ヨシくん』って応援したの。」「へえ、すごいねえ。10回ねえ。盛り上がったでしょうねえ。」「すごいよ。隣の組も見に来たよ。」「そうか、今日は本を借りる日だったんだ。じゃあ、マサオは何借りてきたの？」「ぼく？ 借りなかった。」「ええっ。何で借りてこなかったのよ。宿題じゃないの？ みんな本読んでるでしょ。だから、みんな勉強できるんだよ。もう、ゲームばかりやってて。今度から5冊借りてらっしゃい。」「……。」「いい？ 分かった？」「……。」

小学校1年生のミチコちゃん。お母さんにお答えする声がかんたん小さくなっていく様子が目に見えるようです。

小学校2年生のマサオくん。最初の嬉しさと勢いはどこへやら。最後は、何も言わず、うつむいてしまっています。

どうしてそうってしまったのでしょうか。まずはミチコちゃんについて、ミチコちゃんになったつもりで振り返ってみましょう。「学校、楽しかった？ お友達と仲よく遊べた？ けんかしなかった？」「誰と遊んだの？ サッチャン？ カナちゃん？」ミチコちゃんは、帰宅するなり、お母さんの質問攻めに遭います。立て続けの質問に、ミチコちゃんは「うん。」「ヨリちゃん。」と答えるので精一杯です。お母さんは、さらに追い討ちを掛けます。「先生のお話よく分かった？ よく聞いてた？ 先生、どんなことお話した？」ミチコちゃんは、もう答えるのがおっくうです。「ううん、忘れた。」と逃げ出します。その後のさらなる質問に対しては、最初だけ「うん。」と応答したものの、後は完全に拒否反応です。質問そのものも聞きたくはないでしょう。

次に、マサオくんを見てください。マサオくんは、じゃんけんバトルのことをお母さんに話したくて、帰宅するや否や、「お母さん、あのね、」と切り出します。そして、じゃんけんバトルの盛り上がり状況を意気揚々、嬉々として伝えます。マサオくんの心は、バトル同様大盛り上がりです。ところが、途中で予想だにしない言葉が、マサオくんに降りかかります。「何で借りてこなかったのよ。……もう、ゲームばかりやってて。今度から5冊借りてらっしゃい。」マサオくんは、話さなきゃよかったという思いに覆われます。以後、マサオくんは、お母さんとの会話の中で、二度、三度と同じ思いに立たされます。

(次号に続く)

(平成22年7月)